



異宗防禦ニ付見込



凡規 律法教ナキコレ民ノ方向ヲ失ヒ異

端ニ陥ル所以ナリ今將ニ其終身守ルヘキ

規律ト依ルヘキ法教ヲ確定ニシテ以テ其内

外ヲ制セント欲ス

第一ニ規律ヲ嚴ニシテ其外ヲ制シ第二ニ

法教ヲ宣テ其内ヲ守ラシム第三ニ別ニ密

防ノ策ヲ設クヘシ

大正十一年四月
隈侯爵邸寄贈

一 第一ニ規律ハ戸籍ノ法ヲ明ニシテ氏子改メ
ヲ嚴ニシテ臣民一般終身氏神ノ名符ヲ
大切ニ所持セシムル事コレニ付テ左ノ如ク
法ヲ設クヘシ

一 凡人生ルハアレハ必土産神ニ詣リ神前
ニテ名符ヲ受ケ此ヲ證トシテ官ニ告ク
官其名符ヲ檢シ氏子帳ニ記シ更ニ
其人ニ授ケ終身所持セシム

一 婚嫁或ハ養子ニ付他ノ管轄ニ移轉ス
ル時ハ其名符ヲ證トシテ官ニ告ク官
其名符ヲ取テ前管轄ノ官ニ送り本
社ニ返シ其元ニ正不ヲ訊フ而後其移轉ヲ
許シ更ニ其土神ノ名符ヲ受ケシム移
留ノ者亦此ニ準ス名符ナキ者ハ婚嫁
並ニ移留ヲ許サス

一 死亡ノ日名符ヲ本社ニ返シ神葬ハ必

神職ニ告ケ佛葬ハ必ス僧ヲ招クヘシ
葬ノ式ハ神佛共ニ此例ニ準ス若違フ
者ハ罰ス

一 旅人若名符ヲ所持セサレハ一宿ヲモ
許ス可クス

一 旅人死亡ノ節先ソノ名符ヲ檢シ官ニ
告ク官ヨリテ檢シ為メニ葬儀ヲ辨
シ其本國ニ告ク若名符ヲ持セサル

者ハ只瘞ムルノニ

一 名符ノ法ハ僧モ此例ニ準スヘシ然レ
時ハ必ス神棚設ケ伊勢

本廟ニ詣スル事ヲ許スヘシ

一 毎年一度氏子改ノ節神前ニテ人々
ノ名符ヲ點檢スヘシ

一 水火等ニテ名符ヲ失フ者ハ必ス官ニ
告ク官ヨリテ實ヲ糾シ神職ヲシテ

更ニ名符ヲ換テシム此法情實ヲ得ル
ニアリ煩酷ナラサルヲ要ス

一 丑人組ヲ立テ置キ若此法ニ違フ者アレハ
罪ノ輕重ヨリテ此ヲ罰ス甚キ者ア
レハ其組ヲ罰ス

一 家々必ス神棚ヲ安スヘシ安セザレハ純ス

一 氏神ノ祭禮ハ尤盛ニスヘキ事

一 忠臣孝子死スル時ハ氏神社内ニ其碑

ヲ建テ春秋ハ官ヨリコレヲ祭ル

已上

一 第二ニ法教ハ神儒佛コレナリ夫レ其ノ
道ハ辭スヘラス各其性ノ近キ處ニ依リ
極テ施シ易キ法ヲ以テ詢々コレヲ導ク
ニアリ神ヲ喜フ者ハ神ヲ以テシ佛ヲ喜
フ者ハ佛ヲ以テス其倍ニ順フテ教ヲ設ケ
教ヲ以テ倍ニ戻ルヘカラス若倍ニ悖ルノ

教ハ上ニ行レテ下ニ行レスタ、ニ行レサルノ
三ニ非ス却テ愚夫愚婦ノ無智ナル且ツ恠
三且ツ怨ムニ至ル苟モ敬 神尊 祖ノ大意
ヲ存シ愚夫愚婦ヲシテ

皇國ノ 國タルヲ知ラシメハ儒佛何ソ
擇ハン儒佛ノ羽翼トシ

皇道コレヲ囊括ス而後佛者ノ弊風

皇道ニ違フ者ハ一々コレヲ芟除セシム第一

畜妻啜肉薙髮服制

皇國一定ノ法アルヘシ此法ニ違フ者ハ何人
若人々其好ム所ニ僻シ儒ハ儒服シハハシ
僧ハ僧服シ服シ或ハ英或ハ垂各其服ヲ
服セハ

皇國ノ服制遂ニ一定スヘカラス頃ク断然
大詔ヲ下シ服制ヲ更メ其風俗ヲ一新ス
ヘシ

一 伊勢 淨宮讚岐金毘羅京都本願寺
等其他社寺ノ雄ナル者凡衆心ノ仰ク
所各宣教司ヲ置クヘシ

一 宣教司ハ社司寺僧ヲ論セズ徳實温
戸推誠善論ヨク人ヲ感服セシムル者
其撰當ヘシ

一 宣教ノ規則ハ揭示ノ 御高札並
時々御布告ノ旨ヲ本トス

一 毎月朔望ヲ休日ト定メ其下ノ社寺
悉ク宣教會ヲ設ケ氏子門徒必出
席聞法スヘシ若怠惰欠席ノ者ハ紀
ス 已上

一 第三ニ密防ノ策如左

一 破邪掛リ官負ヲ定メ謀者並ニ講組
等ノ事ヲ指麾ス謀者講組ノ一ハ下ニ
出ス

一 謀者ヲハ撰シ諸関港地ニ分配シ各教
師ノ門ニ入り密ニ邪情ヲ探索セシム
謀者ノ人撰尤精撰スヘキ事
一 謀者ノ月給ハ四等ニ分ツ

- 上等 一月二十圓
- 中等 同十五圓
- 下等 同十圓
- 下々等 同七圓

此他旅行ノ節ハ一日一圓ノ費ヲ給スル
或ハ探索ノ事宜ニヨリ別ニ六圓ヲ給スル
トアルヘシ

一 講組ヲ立テ防邪ヲ周旋セシムル事

諸関港地従前人心信向ノ同シキモノ
某講組ト称スル者アリ今其中ニ於テ同
心堅固ヨク邪ニ抗スルニ足ル者ヲ察シ其
講頭一人ヲ選シ密ニ防邪ノ事ヲ命シ

並ニ、~~邪ノ~~後ヲ監セシム其人ナキ時ハ他ヨ
リ移住セシム

一右講頭防邪入費ニシテ毎月七圓ヲ給フ
ヘシ仁ニ實効ノ多寡ニヨリテ別ニ賞金
ヲ賜ノコアルヘシ

己上

